

# 院長ご挨拶



地方独立行政法人 奈良県立病院機構  
奈良県西和医療センター院長  
土肥直文

梅雨の終わり、各地で大雨による災害が起こっており、犠牲になられた方には心からご冥福をお祈り致します。また、被災された皆さまには心からお見舞いを申し上げ、一日も早い復興を祈るばかりです。令和3年7月、関西では新型コロナウイルス感染症の新規感染者数は比較的低調になっており、オリンピック後に予想される第5波に備えて、院内の準備をしているところでございます。当院は、昨年以來（令和3年6月まで）473名の新型コロナウイルス感染症患者さんを受け入れて入院治療をして参りました。一方、第2駐車場に急遽建設した「発熱外来クリニック」等におきまして、これまで4,300名を超える新型コロナ疑い患者さんの外来診療も行って参りました。県内の新型コロナ重点医療機関のなかでも、大きく病院機能をコロナ診療にシフトした運営となりました。この間、コロナ以外の一般の患者の皆さまには、大変なご不便とご不安をおかけしましたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。コロナの専用病棟を確保するにあたり、小児科は外来ブースおよび病棟が移転、外科系診療科におきましては、病棟縮小となりました。昭和54年竣工の病院建築ですので、老朽化は否めず、水道や空調に不具合がでることも多く、この7月からコロナ以外の病棟（北5階、北4階）におきまして、感染対策目的で空調および水道周りの工事が必要になっています。ご不便をおかけしておりますことを重ねてお詫び申し上げます。皆さまから、病院の構造上の問題について時に厳しいご意見を頂戴しておりますが、現在JR王寺駅周辺への移転・新築について県および周辺の自治体の皆さまにもご議論頂いている状況でございます。それまでの間も診療を継続する必要があるため、患者の皆さまの療養環境をできるだけ整備してゆきたいと考えております。これからも忌憚のないご意見をいただきたいと思います。とっております。

さて、西和医療センター情報誌「ファミリーユ」の8月号をお届けします。新任の中村孝人副院長が、「がん」の話、新任の吉澤弘行小児科部長が「小児医療」の話、新任の整形外科膝関節外科の山崎剛司医長が「変形性膝関節症」の話を執筆してくれました。その他、院内のスタッフがいろいろな情報を書いてくれています。ご自宅に持ち帰ってゆっくりお読みいただければ幸いです。

これから暑い日が続きますが、オリンピックを自宅のテレビで観戦することが多くなることで、外での感染の機会も減るかもしれません。またワクチンの接種も順調に進んでいます。第5波が大きなものにならないよう祈りながら、それでも感染拡大に備えて準備をして参ります。

令和3年7月吉日

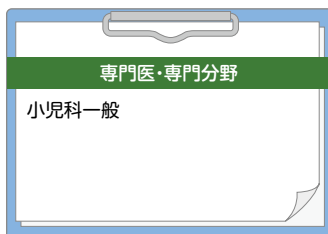
# 新任医師紹介

令和3年4月1日付

小児科 専攻医



くぼ 久保  
こうじ 昂司

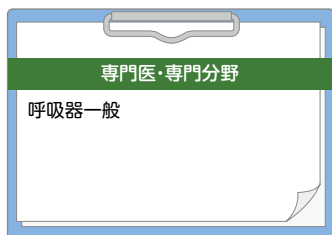


令和3年7月1日付

呼吸器内科 医員



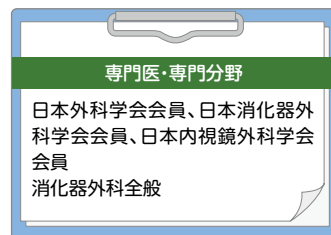
ひらおか 平岡  
じゅんや 惇弥



消化器外科 医員



たむら 田村  
たかし 昂



消化器外科 専攻医



えしり 江尻  
ごうき 剛気

